



東北弁を使った落語でおなじみの六花亭遊花さん。白津さんとともに「魅知国仙台寄席」を立ち上げた一人でもある。

「地域とのつながりなどに関して、どのようにお考えですか。」

花座は中心部商店街の一角にありま

行くたびに 違うおもしろさが味わえる

せんが、私はお客さんが笑っている顔を見るのが好きなんです。特にご高齢の方々の笑顔はいいですね。私が20代で父親を亡くしているの、「親孝行がしたい」という気持ちがあるのかもしれない。

それと、以前から寄席は好きでたまに見に行っていました。そもそも私は音楽が好きで、キャバレーなどでジャズピアノを弾いていたこともあり、ショーアップされた空間が好きでした。寄席を開きたいと思ったのも、そんな気持ちがあったからかもしれません。

「今後の取り組みについてお聞かせください。」

花座を「東北の演芸の聖地」にするのが目標です。東北に演芸文化を広げ、東北のスターを掘り起こしたいという思いもあります。ですから、現在「魅知国シリーズ」として、相馬、山形、花巻、盛岡、八戸、そして東京でも定期的に寄席を開催しています。今後は秋田での開催を視野に、活動を続けていきたいと思っています。

拠点がよくやく完成しましたので、おもしろいことをどんどんやっていこうと思っています。もしかすると驚くような芸人さんが来てくださるかもしれません。お客さんが40人ばかり入る寄席に、春風亭昇太郎先生も、仙台出身のサンドウィッチマンさんも「何かのときは行くよ」と言ってくれました。多くの芸人さんたちが、花座を目指すものに共感してくれているのは、とて

【概要】

魅知国定席 花座

代表者：席亭 白津 守康

開設：平成30年4月1日

営業内容：①定席寄席 毎月1日～5日、および 21日～25日の10日間は落語芸術協会が企画・運営 通常料金2,000円（税込）65歳以上1,500円（税込）※料金は演目により異なります。②①以外の日程（約20日間）は定番演芸会ほか協会落語家公演

所在地：仙台市青葉区一番町4丁目4-23

TEL：022-263-9608（公益社団法人落語芸術協会 東北担当

仙台事務所【㈱BBI内】

ホームページ：https://hanaza.jp



やがて生まれ来る子供たちのために。

宇宙のオアシス『地球』。ただひとつの、この青い星を守って行かなくてはなりません。

大切な人のために、そしてやがて生まれ来る子供たちのために。

私たちは、よりよい環境をめざし、考えつづけます。

よりよい環境をめざす
AOBA 青葉環境保全

本社/仙台市若林区蒲町19-1

電話(022)286-3161(代)

クローズアップインタビュー

東北の噺家や芸人、おなじみの落語家が連日出演。「東北の演芸の聖地」に気軽に足を運んでください。

公益社団法人落語芸術協会 仙台事務所 所長

魅知国定席 花座 席亭

しらつ もりやす
白津 守康氏

プロフィール

昭和36年9月6日生まれ。仙台市出身。血液型AB型。

仙台南高校を卒業後、東北学院大学に進学。15年商社に勤務し、その後、不動産業の㈱シラツ、イベント会社の㈱BBIを立ち上げた。平成17年度には仙台商工会議所青年部会長を務める。一方、虎屋横丁・稲荷小路親交会でもまちづくりに奔走。平成22年には「魅知国仙台寄席」をスタートさせ、今年4月1日には、魅知国定席「花座」をオープンした。趣味はジャズピアノ演奏。「子供は男の子3人。家のことは家内任せなので、ありがたうと伝えたいです」と笑う。座右の銘は、フランスの哲学者アランの言葉「幸福だから笑うのではない。笑うから幸福なのだ」。

東北の演芸と 芸人を育てる空間

「4月1日にオープンした魅知国定席「花座」には、どのような方々が出演されるのでしょうか。」

基本はプロの芸人です。花座は桂歌丸師匠が会長の落語芸術協会の定席（常設の寄席）という位置づけです。この協会の芸人さんを中心に、漫才協会やそのほかの団体に所属する噺家さんなどにも出演いただきます。

もう一つが東北で活躍中の噺家さん、芸人さんたちです。六華亭遊花さんを中心としたプロの方に加えて、まだプロではない方々にも出演いただきます。

花座は、東北の演芸と芸人を育てることを目指しています。ですから、「演芸の聖地」であったり、「出ることがステータス」だと考えられるようになれば良いと思っています。東京などほかの地域の寄席は、基本的に素人の方は出られませんが、東北は独自の文化を育てていこうということで、真剣にプロを目指している方々にも出演していただくと思っています。

ショーアップされた 集客・交流の場を

「魅知国仙台寄席から、花座オープンまでの経緯をお聞かせください。」

私は、平成12年に不動産会社を立ち

もううれしいことですね。

「最後に、仙台商工会議所会員の皆さんにメッセージをお願いします。」

とにかく何回も足を運んでください。落語はネタが同じでも、話す人が違うとまた違うおもしろさがあるものです。また「色物」と言いつつ、漫才や講談、音曲、紙切り、太神楽、漫談など、さまざまな演芸がありますので、ぜひ気軽にのぞいてください。大いに笑って、楽しんで、仕事を通じて大好きな仙台、東北に良い影響を及ぼせるよう、がんばります。

上げ、その後、イベント会社を設立しました。直後は何かと慌ただしかったのですが、それらが落ち着いたら、「ふと」「これからは地域貢献をしなければいけない」と思ったのです。それから、本業以外のさまざまな活動に参加することにありまして、気がついたときには、すっかり「まちづくりおじさん」になってしまっていました（笑）。

平成14年に仙台商工会議所青年部が設立され、初期メンバーとして参加し、のちに会長を務めました。平成16年には商工会議所が事務局となって楽天イーグルス・マイチーム協議会が設立され、そのメンバーにもなりました。さらに青年部に入る少し前には、虎屋横丁・稲荷小路親交会に入りまして、「ほろ酔いスタンプリアー」をスタートさせ、定着させようと一生懸命取り組みました。

このような活動をしていますと、まには集客・交流というものが大変重要であることがわかってきます。そこで、平成22年にその手段として寄席をつくりました。それが「魅知国仙台寄席」です。当時は川野目亭南天の名前で活躍していた六華亭遊花さんと一緒に、仙台セントラルホールで毎月原則第1土曜日・日曜日の2回、震災の後も休まずに今日まで続けてきました。これからは場所を花座に移行して、月に10日間、開演します。

「続いた秘訣は何でしょうか。」

「これ」というものはない。浮かびま